

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	青き火
Author(s)	古野, 秀谷
Citation	龍南會雜誌, 158: 174-174
Issue date	1915-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6509
Right	

君もわれもキヤラメルのごと箱のなか大日本のすよりなきかな。
なすことゝ思へることゝどこしへに二つの道をならべたるかな。
歡樂の鸚鵡はにげぬわが胸の格子の銀のうすくもりかな。
悲しきは口のまわりの疎髻かな少年どものあざ笑ひかな。
時をりの人ごみの中街道をひたばしりするかなしき癪かな。

青

き

火

三部一年 古

野

秀

谷

新調の服の釦の心地よく晴れたる空に光りかへすも
瞳あぐれば阿蘇の火山は嚴かに大青空に雲吐きてあり
阿蘇山の吐く白雲のひろごりて夕の空をつゝみ行くなる
身のつかれ心の痛み癒やしけるわが熟睡の尊かりし朝
今宵のごと闇き夜なりき人燒きが父焼くために焚きし青き火
物思ふと眉寄するなるならはしを姉も持ちけり淋しき今宵
み佛はそがひになりていまさずや今のくらさに死の來るらし
沈み行くわが此頃の心暗し氣をとりおほし街に出でなむ
いひ出でん言葉もつきてむささしの密柑を食めり詮すべをなみ